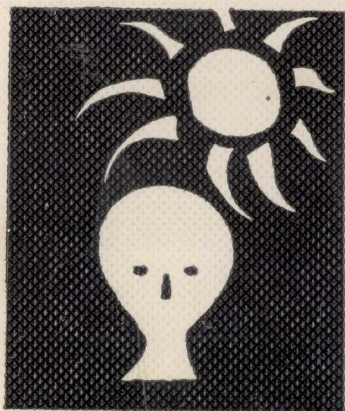


おとなって、みんな
悩んでいるのね

11歳の目

遠藤和子編



あすなろ書房

でいるの

11歳の目

みんな悩んでいるのね

遠藤和子編



あすなろ書房

おとなって、みんな
悩んでいるのね

—11歳の目—

著者との話
し合いによ
り検印廃止

著者紹介

遠藤和子（えんどう・かずこ）

1925年富山県に生まれる。

富山師範学校卒業。教員として現在に至る。そのかわら児童劇作家・斎田喬氏に師事し、児童劇作、童話創作活動を行なう。日本児童演劇協会会員。日本児童劇作の会会員。富山県児童文化研究会員。『学校放送百選』などに執筆。主著 『あしたの歌』

おとなって、みんな悩んでいるのね

1969年12月8日 印刷

定価 480円

1969年12月18日 発行

編 者 遠 藤 和 子

発行者 山 浦 常 克

印刷者 白 田 泰 雄

発行所 株式会社 あすなろ書房

東京都千代田区五番町 10-6

電話 (261) 0346 振替東京 63084

佐久印刷・田中製本

乱丁、落丁本は、おとりかえ
いたします。

はじめに

『おとなって、みんな悩んでいるのね・11歳の目』は、文字どおり小学校六年生の子どもたちがとらえた、にがりのない、まっ正直な心の目です。どこの町や村にも見かける、ごくありふれた子どもたち。いまの社会の流れの中に生きている子どもたちが、書くことによってとらえた、暮らしへの目であり、真実を求めて歩み続けた一年間の記録です。

子どもたちは、切実な気持ちを訴えています。未知にあこがれ、楽しい夢をいっぱいにひろげています。労^{いた}わりの心情を底にはわせています。そして、真実を求めることから自分の生き方を考えようとしています。よい意味にも悪い意味にもいわれる現代っ子気質。その現代っ子の心の奥底を掘り起こしてみたら、このような心の目がいくつもいくつも出てきました。

この心の目は、ひとりひとりが暮らしの中からとらえた問題を提起し、それをみんなで考えあう形をとっています。これは学級全体が総ぐるみになって心豊かな明るい学級づくりを目ざした、ひとつの営みでもあったわけです。

卒業をひかえた一年間は、子どもたちになれ親しむまもなく、あっという間に過ぎていきます。わたしはこうした一年間を充実したものにするために、日記を書きつづらせて、子どもたちとの心

の交流をはかろうと思いました。あわせて、自分の暮らしを自分の目でしっかりと見つめ、そこから発見した問題について考え、さらに、書きながらその考えを深め、そのうえ友だちの考えを知って、深い光った心の目をみがいてくれることを願いました。

日記と並行して、二百枚のひとり文集やニュース調べもしました。これは、書くことになれば、社会事象の中から問題をとらえるためのものであって、植物を育ちやすいようにする土壌づくりにはかならなかったのです。

こうした営みをはじめて一年間。始業式や終業式の日はもちろん、元日の朝、卒業式の日までも、たゆまず書きつづけました。

子どもたちは書く楽しさを知りました。暮らしの中から、ぞくぞくと掘りだされてくるタネに、おどろきと疑問をもちました。友だちの喜びや悲しみをそれぞれ自分のものにして、ともに喜び、労わり、励ましあいました。

おどろきは、すなおさと謙虚さを育てました。疑問から、物ごとを深くとらえて考えるようになりました。そこから、正しい生き方を求めていきました。喜びや悲しみは、やさしくうるおいのある心を育てるとともに、自分の暮らしを見かえすようになりました。

また、現実の社会事象と、道徳や社会科の学習とがからまりあいながら運ばれ、考え方の多様性と多元性を育てました。そればかりでなく、問題提起が発展的な問題を生みだしました。また、書く力がのびたばかりか、提起された問題を考えるときに、道徳や、社会科学学習とがからみあって運

ばれ、暮らしと教科学習とが、しっかりと結びあっていきました。そればかりでなく、提起された問題について考えたことが、つぎの新しい問題を生みだすきっかけをつくっていきました。それらすべてが、世の中の平和と人類のしあわせにつながっているのです。

休けい時間に問題提起の文章について討論しあったり、片時も離せなくなった辞書をくっている姿を見て、植物は、土壌さえあれば育つものだと思えました。

こうして、毎日の暮らしの中での友情・ほほえましい恋ごころ・家族愛・微妙にゆれ動く人間の心から、社会にある矛盾などを断ち割って、子どもたちは、教師の求めた以上のものをもつかみとってくれたのです。

数多くの問題と、それについての意見、真実を求め、平和への道を悲願とする子どもたちの魂の叫びは、いまでも、わたしの心の中で生きつづけています。

熱のために学校を休んでも、日記だけは書き続けた東くんや荒川くん、黒川くん。卒業式でいう呼びかけは、与えられたもので自分の叫びではないと、自分だけの呼びかけをつくって卒業していった熊本くん。自分の問題がとりあげられなかった理由を、考えあってほしいという問題提起をした永井さん。校門を出て卒業していったのに、そのときの実感を書きに、また学校にもどってきた米田くんなど、書くことはひとりひとりの暮らしの中にしっかりと根づいたのです。

この子どもたちも、今は中学二年生です。これからも、謙虚なおどろきの目で物ごとを見つめ、迷いと疑いの目でそれを考えることによって、しっかりと暮らしを見る目を持ち、自分の暮ら

しをつくりあげていってくださることを望んでいます。そのうえに、喜びや悲しみを感じるような、深みのある人間に育ってくださることを願っています。

一九六九年十二月

遠藤 和子

おとなって、みんな悩んでいるのね ● 目次

はじめに

I うちのこと

おとなって、みんな悩んでいるのね■お金持ちになりたい……………二〇
かあちゃんについて■ぼくは、かあちゃんだけで十分だ……………二三
にいちちゃんの結婚……………二六

・ゆいのう■お金で心が買えるのか？……………二六

・結婚のきっかけでかわる家■およめさんに、かっこう悪い

から？……………二九

・結婚式■結婚って、おとなの世界のことだ……………三六

夫婦仲■けんかしても、夫婦は仲がいい……………三九

II 11歳の心とからだ

南くん、ごめんなさい■好きな人、ベスト5をいわされて……………四六

わたしたちは、小さなおとな■理解してほしい、変な気持ち……………五二

子どもによくないキス・シーン■全国の人たちの前でやるなん

て、心臓だ……………五五

赤ちゃんと血液型 ■なぜ父親と同じ型になるの？ 九四
声がわり ■もとの声にもどりた 一〇三

Ⅲ 社会のこと

市長代理は、そんなに偉いものか ■市長代理だけが偉い人か 一一六
しょうい軍人 ■なぜ欠点ばかり見せつけるのか 一二四
人間どうしが殺し合う戦争 一二五
・ベトナム戦争 ■見えつばりの戦争なんて、ばかばかしい 一三三
・エンタープライズ号事件 ■日本の歴史は、武力で決まってきた 一四一
ふろ貸 ■チビでも、おとな料金 一五五
おとなにふくしゅう 一五九
宝くじ ■もし八百万円当たったら 一六九
交通戦争のない世に ■総理大臣は、ひとりで町を歩いてみて 一七六
受験と進学 ■三年後には、入試がまっている 一八一

Ⅳ 学校的生活

先生らしく ■失敗をおもしろがる先生 一九六

マンガ■マンガは気分転換に必要……………	二〇四
転校して■名古屋では、人気者だったのに……………	二二三
先生、若返ってください■お化粧のしかたは、こうです……………	二二六
ぼくの悩み■茶色の毛よ、どっかへ行っちゃまえ……………	二二六
ゆううつな、ぼうず頭■どうして中学では、髪の毛を伸ばせないの……………	二二七
暮らしとともに……………	

1 社会の流れの中で生きている子どもたち……………	二六三
2 心の解放を目ざして……………	二六六
3 タネはどこにもある……………	二七六
4 明るい学級……………	二八六

とびら・カット
そうてい
岡村紀子

I

うちのこと



おとなって、みんな悩んでいるのね

○お金持ちになりたい

きのうの夜、ぼくが宿題をしていると、おとうさんが酒くさい息をはきながら、まっかな顔をして帰ってきました。

おとうさんはふらふらしながら、ぼくの横を通りぬけて台所へ行きました。

(おとうさん、また酒を飲んできたな)

ぼくがそう思っていると、台所で大きな音がしました。

かあちゃんをたたいたのだと思ったぼくは、とんで行きました。ちょうど、かあちゃんが洗たく機をまわして洗たくしていたのです。

「あーあ、お金がもうからん」

そういつて、また、かあちゃんの背中を力いっばいたいたおとうさんは、台所にきたぼくを見ると、ふらふらしながら近づいてきたかと思うと、

「お金、もうからん」

そういつて、こんどは、ぼくの頭をベチンとたたきました。ぼくは、何のためにたたかれたのかと、

ふしぎな顔で見上げると、おとうさんはよろしなから台所を出ていきました。

「こら秀雨、勉強せんか！」

テレビを見ていた弟は、おとうさんのけんまくにびっくりしてかばんから本を出しました。ぼくがへやにもどると、おとうさんがやってきて、

「政雨も勉強せんか」

と、また、ぼくの頭をたたきました。ぼくが、

「勉強しているんだよ」

と答えると、

「これから勉強せんと、学校の集金をはらわんど」

そういつて、また、ぼくの頭をなぐりつけました。それで気がすんだのか、どっかりとすわると、テレビを見ました。まっかな顔のまっかな目が、いまにも泣きそうに見えました。

（お金がもうからんから、八つ当たりをしているのだな。ほんとうは悲しいのだろう）

ぼくは、テレビを見てやつと静まったおとうさんがかわいそうになりました。

こんなことは、きょうだけではありません。一年に六回はあります。いつも酒を飲んできます。ぼくは、おとうさんが酒を飲んでくるのは、飲みたいから飲みに行くのではなく、家のことを考えて頭にきているのだと思います。だが、もうからないといって酒を飲んでくるのはおかしいと思います。だから、酒中毒になんかなるのです。

ぼくの親せきは、みんな鉄くず屋です。そして、みんな貧乏です。いつか、かあちゃんが神様のおつげをしらせる家に、

「この仕事を続けてもよいかどうか」

を聞きに行きました。すると「やめるな」と答えられたそうです。

ぼくは夜になると、金持ちになる夢ばかりみます。りっぱな家に住んで、子どもべやのある友だちが、ともうらやましいです。ぼくの家はおんぼろです。となりのへやは床が落ちていたので、ぼくがおごととタンスが倒れます。だから、おごりたくてもおごれません。

お金持ちになればりっぱな家に住めるし、おとうさんも、酒を飲んできてかあちゃんやぼくをたたかなくなります。

ほんとうに、お金持ちになりたい。どうしたら、お金持ちになれるかなあ。

(山本政雨)

ああ、お金がほしい、かあちゃんを休ませたい

ぼくの家も、お金でくろうをしています。

ぼくが一、二年生ごろは、かあちゃんは自動車に乗って働きに出ていましたが、働いても働いてももうからず、そんなときかあちゃんはため息をつきながら、

「おまえたちは勉強して、偉い人になってや」

そういつて、自分の心をなぐさめていたようです。

今は会社の仕事を引き受け、家で、朝早くから夜おそくまで働き続けています。それでも借金を返すために、働いたお金はなくなっています。

ぼくは、かあちゃんがかわいそうでかわいそうでなりません。毎日、学校から帰ってくるとき、家の近くになると、かあちゃんの機械を動かす音がこつこつと聞こえてきます。ぼくにはその音が、かあちゃんの「ああ、つらい、つらい」という声になって聞こえてくるのです。そして、ぼくまでが悲しくなってきました。

お金さえあれば、かあちゃんこんなつらい目にあわないのです。かあちゃんは、どんなことがあっても、にいちゃんを高校に上げるんだといっています。その、高校へ行くのにもお金がかかります。

ああ、お金がほしい、お金持ちになりたい。そして、かあちゃんをゆっくりさせてあげたい。世の中って、お金さえあれば通っていけるような気がするんだ。

山本くんの家なんか、ぼくの家よりいいんだよ。おとうさんもいるし、大きなトラックもあるし、ずっとずっといいんだよ。

ぼくの家は、かあちゃんがひとりで、つらいつらい目にあっているんだよ。かあちゃんをゆっくり休ませてあげたい。日曜日には遊びに行かせてあげたい。

ああ、お金持ちになりたいなあ。

お金があれば、新しいおかあさんがきてくれる

わたしの家も月の終わりがろになると、お金がすっからかんになります。すると、家の中が暗くなったような気がして悲しくなります。

お金がなくなると、わたしの父は山本くんのおとうさんとちがってやさしくなります。お酒などは飲みません。でも、わたしはひとりになると、

（お金持ちになる方法はないかな。どこから五十万円ほどころがりこんでこないかな。そうすると家計も楽になるし、新しいおかあさんもきてくれるだろう。そうすれば助かるのだからなあ）

と思うのです。なんといっても、子どものわたしが家計をやっているものですから、赤字ばかりなのです。

しみじみと、お金のある人がうらやましくなります。

（藤谷由紀子）

おとなって、みんな悩んでいるのね

山本くんの文を読んで胸を打たれ、しばらくはぼおーっとしていました。

山本くんのおとうさんも、お酒を飲まれるんですね。わたしのおとうさんも、仕事が失敗するとよくお酒を飲んで帰っては、わたしたちに八つ当たりをします。男って苦しかったらどうしてお酒を飲んで人をたたいたり、打ったりするんだろう。

わたしのおとうさんは、毎日、車に乗ってかけずり回っています。こんなにしていても仕事が失